

すべての助産師の  
キャリア開発を支援する機関誌

# アドバンス助産師

Vol.  
6  
2020.2  
月号

特集

## いま、求められている 助産師の実践力

### CONTENTS

- 2 2020年 アドバンス助産師の更新要件とスケジュール
- 4 2020年 アドバンス助産師の更新要件
- 6 **2022年 NEW**  
アドバンス助産師の更新申請要件が変わります
- 8 **座談会** いま、求められている助産師の実践力
- 12 2019年 認証審査結果報告
- 14 アドバンス助産師交流会のご報告
- 16 あとがき

Advanced Midwife



# 第34回 日本助産学会学術集会

Japan Academy of Midwifery in NIIGATA 2020

テーマ **人生100年時代の助産ケア**

プレングレス

2020年3月20日(金)

学術集会

3月21日(土)・22日(日)

会場

**朱鷺メッセ**

新潟コンベンションセンター

〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号

会長

**有森 直子**

新潟大学大学院保健学研究科 教授

会長講演

人生100年時代におけるゲノム医療と意思決定支援

特別講演

人生100年時代のウィメンズヘルスと助産

Prof. Caroline Homer (Burnet Institute, University of Technology Sydney)

教育講演 1

周産期と倫理

CLoCMiP® ステップアップ研修  
周産期の倫理に関する研修 (要事前登録)

宮坂 道夫 (新潟大学)

教育講演 2

新潟県における産科医療と助産の歴史

渡邊 典子 (新潟青陵大学)

教育講演 3

新たないのちをチームで見守る

～周産期医療チームの連携～

豊島 勝昭 (神奈川県立こども医療センター)

教育講演 4

学校で配慮と支援が必要なLGBTsの子どもたち

日高 康晴 (宝塚大学)

シンポジウム 1

乳がんと助産ケア

CLoCMiP® ウィメンズヘルスケア研修

シンポジウム 2

ときめき女性医学 — 助産学と女性医学の連携を探る —

CLoCMiP® ウィメンズヘルスケア研修

シンポジウム 3

大規模コホート研究が導く人生100年時代の助産ケア

～「女性の生活習慣と健康」「環境と子どもの健康」に関する調査から～

CLoCMiP® ウィメンズヘルスケア研修

シンポジウム 4

今世界が目目している出産ケア

CLoCMiP® ウィメンズヘルスケア研修

シンポジウム 5

助産師教育の修業年限2年を考える

シンポジウム 6

女性の健康と冷え症のケア

CLoCMiP® ウィメンズヘルスケア研修

ワークショップ

助産師が行う出生前検査への支援

CLoCMiP® ウィメンズヘルスケア研修

事務局

新潟大学大学院保健学研究科内

〒951-8518 新潟市中央区旭町通2-746

TEL & FAX: 025-227-0948

運営事務局

株式会社アド・メディック内

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野310

TEL: 025-282-7035 FAX: 025-282-7048

E-mail: jam34@admedic.co.jp

update : Nov.2019

事前登録期間

▶ 2020年 **1/15** 水 まで

<https://admedic.co.jp/jam34/>



巻頭言

## 一人ひとりの アドバンス助産師の 努力は宝

一般財団法人 日本助産評価機構 理事長

堀内成子

この度、機関誌「アドバンス助産師」第6号の発行に至りました。ここに至るまでに多くのみなさまのお力添えがありましたことに心より感謝いたします。

2015年から始まりましたCLoCMiP®レベルⅢ認証制度は、2020年に初めての更新申請年を迎えます。2015年度から2018年度までに合計約12,000人のアドバンス助産師が誕生し、そして本年2019年には、743人の申請を受け付けました。

アドバンス助産師の取得を後押しする産科管理者の工夫を耳にします。新人助産師が入職してから6～7年目で申請できることをめざし、妊婦健康診査・分娩介助・産褥ケア・母乳外来を経験できるように、配置に工夫をしているというお話を伺いました。また、医療施設に「乳腺炎重症化予防ケア・指導料」の監査が入り、アドバンス助産師がケアを担当し、診療記録に記名する重要性を再認識したという声もありました。嬉しいことにアドバンス助産師の手当て（認定看護師と同額）を月額給与に反映させた病院もあると聞きます。一人ひとりの小さな努力の積み重ねがあって、アドバンス助産師の活躍があります。オールジャパンではじめたこの認証制度が、質の高い助産ケアにつながるものと確信します。

アドバンス助産師交流会では、「アドバンス助産師ってどんな人？」のテーマに対して『院内助産のできる人』、『プロ中のプロ』、『産婦さんや家族の方だけでなく、他職種からも信頼されている人』、『自分たちで考え、発信できる人』との発言がありました。

この認証制度が、自己研鑽の機会である周産期関連学会や研修会への参加を常態化させたことは言うまでもありません。社会格差が健康状態を左右し、生き方や家族のあり様、性の多様性を知る努力がなければ患者さんに寄り添えない時代です。学ぶことは、自分自身を内省し、克服すべき課題や対象への感謝と尊敬につながります。

正確性、救命力、チーム力、そして創造力をもって命の誕生に寄り添う、愛とぬくもりのある人間性豊かな専門家でありたいと願います。



所感

## 成育基本法と アドバンス助産師

一般社団法人

日本周産期・新生児医学会 理事長

金山尚裕

日本社会の根幹の課題は少子化です。自治体の財政難、年金の減少、増え続ける医療費、外国人・高齢者雇用促進、女性の社会進出支援、晩婚化、大学においては大学統合、産婦人科・小児科医師不足、医療ツーリズム推進など、すべての原因は少子化にあると言っても過言ではありません。

そのようななかで2018年12月、成育基本法が成立いたしました。その条文の中で「医師、歯科医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師その他の医療関係者は、国及び地方公共団体が講ずる成育医療等の提供に関する施策に協力し、成育過程にある者の心身の健やかな成育並びに妊産婦の健康の保持及び増進に寄与するよう努めるとともに、成育医療等を必要とする者の置かれている状況を深く認識し、良質かつ適切な成育医療等を提供するよう努めなければならないこと」とあり、母子の健康に携わる医療人の責務として、いま以上に妊婦や成育過程の子どもに良質な医療を提供することが必須となりました。今後この基本法に沿って国や地方公共団体からさまざまな施策が講じられるはずで

妊娠前の女性の健康、妊娠の成立から分娩、産褥・育児支援など、女性にとって重大なイベントに寄り添って継続的にケアすることが求められることになりますが、助産師はここに大きくかかわります。とくに知識とスキルの高いアドバンス助産師はリーダー的存在になるはずで

アドバンス助産師に求められる水準として、助産に関する知識や技術のレベルが高いことに加え、社会の要請に応じた経験を積んでいることが条件となっています。若い世代への生殖教育、不妊症への啓発、低出生体重児対策、安全な分娩対応、産後のメンタルケア、新生児・乳幼児の健康維持など、社会から私たちに要請されているものは増加の一途をたどっています。上記の諸問題はすべてアドバンス助産師のみなさまが活躍する分野です。

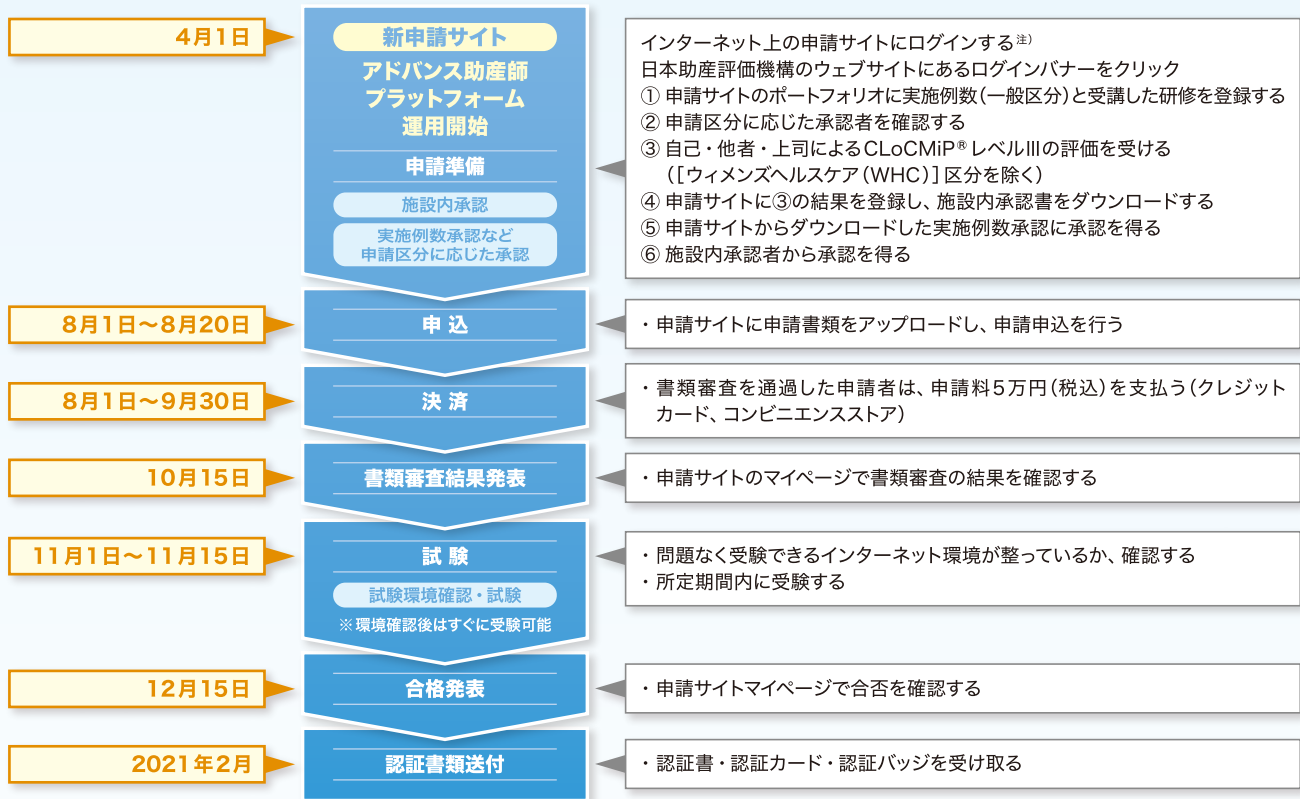
個人的に日々強く感じることで、月経、排卵、妊娠や分娩に対しての若い方々への教育が不足していることがあります。たとえば月経不順は無排卵に関連すること、やせは無排卵につながる事、不妊治療の補助は43歳未満が対象であること、低出生体重児が将来のメタボリックシンドローム発症のリスクになることなど、若い方でこれらの事実を知っている方は非常に少ないのが現状です。

われわれの日本周産期・新生児医学会は妊産婦と新生児の医学・医療への貢献を目的としていますが、われわれの学会もみなさまと車の両輪として、上記諸問題の解決のため手を携えて歩んでいきたいと考えています。成育基本法の理念を実践し、社会の要請に応えるのはアドバンス助産師の大きな使命だと思います。みなさまのさらなる活躍を祈念しています。

2020年

# アドバンス助産師の更新要件とスケジュール

## CLoCMiP®アドバンス助産師 更新申請のながれ



### 重要 注) アドバンス助産師で申請サイトに登録されていない方がいます!

2015、2016年度申請時のメールアドレスが他の申請者と重複していた方(例:看護部の共有アドレスを使用している方など)は、ユーザー登録ができていません。該当する方は、新規ユーザー登録の手順に従ってマイページ開設後、「お問い合わせ」から事務局まで認証番号をお知らせください。事務局で認証番号と名簿情報を照会したのち、システムにアドバンス助産師として登録します。

## アドバンス助産師更新時期延長について

やむを得ない理由(出産、育児、傷病、進学等)で更新年に更新できない認証者は、更新時期延長申請の対象となり、申請が承認されれば更新時期が1年延長されます。

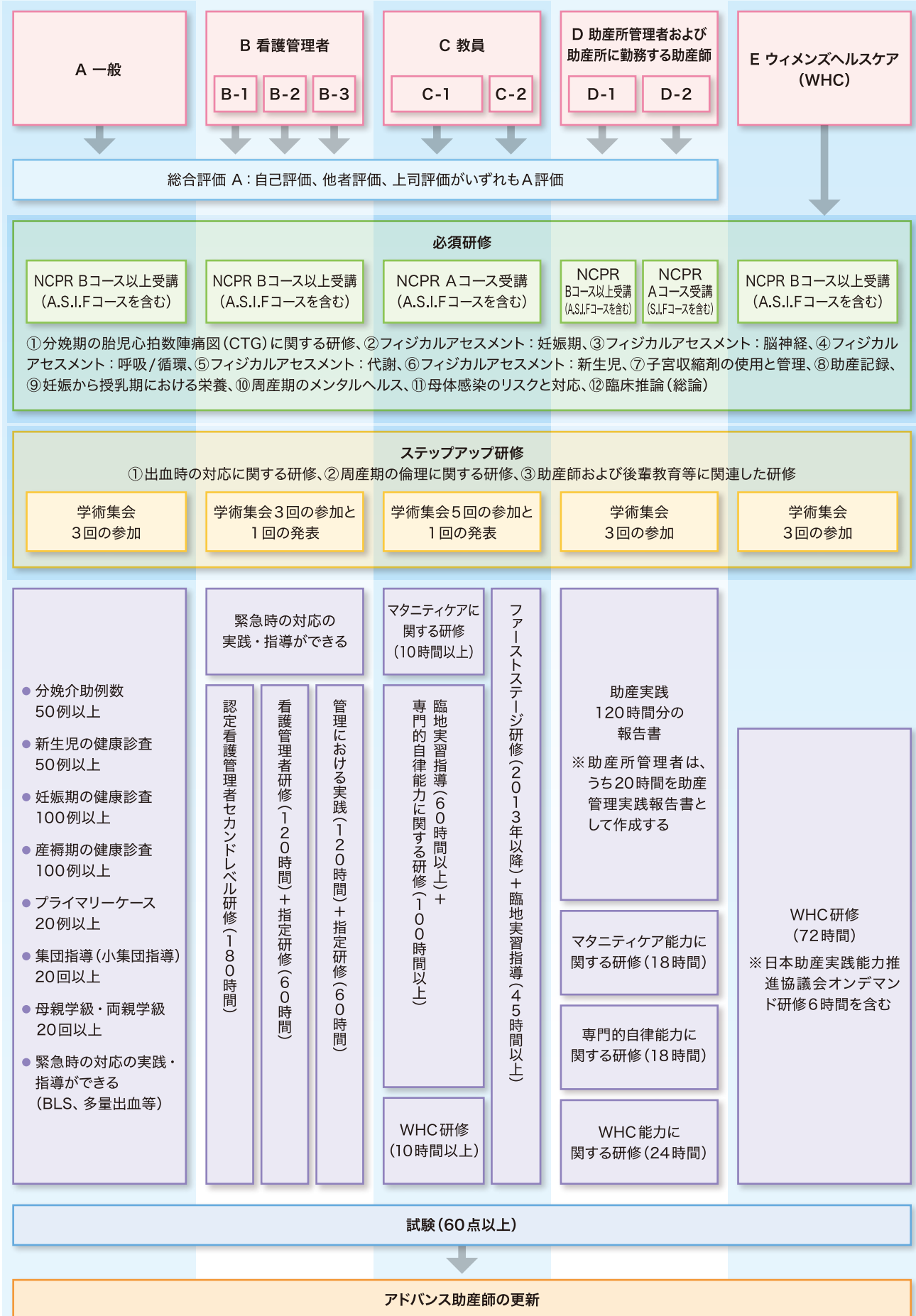
- 申請1回につき1年、最大3回(3年)延長可能です
- 更新年の更新時期延長申請期間中にインターネット上の申請サイトから申請してください
- 認証期間は延長されません。延長期間中、アドバンス助産師の呼称は使用できません
- 延長を認められた者が更新申請するときは、延長期間を含めた実績で、その年の更新申請要件を満たす必要があります  
 例) 更新年の2020年に1年延長し、2021年に更新申請 → 6年分の実績で2021年の要件を満たし更新申請する。  
 [WHC]区分で2021年に更新申請する場合、WHC研修は108時間の受講を必要とする。

## アドバンス助産師の再認証について

更新年に更新せず、更新時期延長申請も行わずに認証を喪失した場合は、任意の年に再認証申請が可能です。

- **開始時期**: 2021年以降
  - **申請対象期間**: 再認証申請年から遡って過去5年間の実績
  - **申請要件**: 再認証申請時の更新要件に準じます
  - **申請方法**: 申請サイトより申請
- 例) 更新年の2020年に更新・更新時期延長せず、2021年に再認証申請 → 5年分の実績で2021年の更新要件を満たし、再認証申請する

CLoCMiP® レベルIIIアドバンス助産師 更新要件



詳細は次のページへ

■ 2020年 アドバンス助産師の更新要件 ※必須研修・ステップアップ研修は全区分で受講が必要です

区分	A 一般	B 看護管理者	C 教員
総合評価	A	A	A
1) 必須研修	①分娩期の胎児心拍数陣痛図(CTG)に関する研修、②フィジカルアセスメント：妊娠期、③フィジカルアセスメント：脳神代謝、⑥フィジカルアセスメント：新生児、⑦子宮収縮剤の使用と管理、⑧助産記録、⑨妊娠から授乳期における栄養、⑩周		
1) ステンディン	N CPR Bコース以上受講 (A.S.I.Fコースを含む)	N CPR Bコース以上受講 (A.S.I.Fコースを含む)	N CPR A (A.S.I.F)
1) ステンディン	①出血時の対応に関する研修、②周産期の倫理に関する	①出血時の対応に関する研修、②周産期の倫理に関する	①出血時の対応に関する研修、②周産期の倫理に関する
要件詳細	学術集会3回の参加	学術集会3回の参加と1回の発表	学術集会5回の
到達の条件	<p>分娩介助50例以上<sup>2)</sup> (35例以上は経膈分娩)</p> <p>新生児の健康診査 50例以上 妊娠期の健康診査 100例以上 産褥期の健康診査 100例以上 プライマリーケース 20例以上 集団指導(小集団指導) 20回以上 母親学級・両親学級 20回以上 緊急時の対応の実践・ 指導ができる(BLS、多量出血等)</p> <p>2) 新人助産師等後輩の指導等で立ち会った場合も分娩介助例1例とします。ただし、自分自身が介助する事例を必ず含めてください</p>	<p>緊急時の対応の実践・指導ができる</p> <p>(B-1) 認定看護管理者セカンドレベル研修<sup>3)</sup> (180時間)</p> <p>(B-2) 看護管理者研修<sup>4)</sup> (120時間)+指定研修<sup>5)</sup>(60時間)</p> <p>(B-3) 管理における実践<sup>6)</sup> (120時間)+指定研修<sup>5)</sup>(60時間)</p> <p>3) 2012年以降に認定看護管理者セカンドレベル研修を受講した者は、初回の更新に限り申請が可能です。2011年までの旧カリキュラム受講者は、本要件に該当しないため、B-2、B-3のいずれかを選択してください</p> <p>4) 看護管理者研修とは、CLoCMiP®レベルIII・専門的自律能力の「管理」にあたる内容の研修を指します(主催者は不同) 例)「産科管理者交流集会」</p> <p>5) 指定研修とは、以下の①～④を指します ①日本看護協会主催研修のうち、アドバンス助産師[看護管理者]区分更新の到達条件として認められた研修 ※詳細は、日本看護協会ウェブサイト、日本助産評価機構ウェブサイトを確認してください ②日本助産学会が主催する助産政策ゼミ ③都道府県看護協会で開催される日本看護協会役員または助産師職能委員が講師を担う看護管理に関する研修 ④WHC能力育成のための教育プログラムに基づく院内研修を企画し、かつ、受講した場合</p> <p>6) 管理における実践(120時間)は①～⑤のとおりです ①教育(30時間)：目標による管理面接、教育評価等 ②研究(24時間)：研究計画書、施設内(学会含む)報告等 ③コミュニケーション(6時間)：プレゼンテーション、講義等 ④倫理(12時間)：意思決定支援のファシリテーション等 ⑤管理(48時間)：災害訓練、感染対策、地域連携、看護管理に関連した委員会活動等</p> <p>下記の内容をレポートにまとめ、施設内承認の際に提示してください * 文字数・枚数の指定はありません * 本レポートは、CLoCMiP®レベルIII認証の申請書類ではありません 1. 氏名/所属施設/部署/職位 2. 専門的自律能力の該当項目 [①教育・②研究・③コミュニケーション・④倫理・⑤管理] 3. テーマ 4. 現状分析 5. あるべき姿 6. 取り組み内容 7. 評価 8. 課題</p>	<p>(C-1) ●下記の要件を満たすこと 1. マタニティケアに関する研修<sup>7)</sup>を10時間以上受講する 2. 臨地実習指導<sup>8)</sup>を60時間以上実施する(臨地実習指導実践レポート<sup>9)</sup>) 3. 専門的自律能力に関する研修<sup>10)</sup>(1)～(5)を所定時間(計100時間以上)受講する (1)教育および臨地実習に関する研修(30時間以上) (2)研究に関する研修(15時間以上) (3)コミュニケーションに関する研修(15時間以上) (4)倫理に関する研修(15時間以上) (5)助産管理に関する研修(15時間以上) 4. WHC研修<sup>11)</sup>を10時間以上受講する</p> <p>7) 全国助産師教育協議会(以下全助協)が以下①、②いずれかの条件を満たす研修 ①日本看護協会、日本助産師会、日本助産ティケアに関する研修、[助産所管理者研修 科目1]に該当する研修 ②全助協が承認した「マタニティケアに関する研修」※全助協が研修の承認を行います。[教員]される研修主催者は、全助協に申請書をサイトからダウンロードしてください</p> <p>8) 臨地で行う助産または母性看護に関する</p> <p>9) 臨地実習指導実践レポートは、日本助産らダウンロードし、様式に従って記載して</p> <p>10) 全助協が主催する「専門的自律能力に関する研修」を指します。 ①日本看護協会、日本助産師会、日本助産会、都道府県助産師会が主催する「研究」 ②全助協が承認した「専門的自律能力に関する」看護専任教員養成講習会における「研究協が承認したものに限り[教員]区分の更新からの申請が必要です。詳細は全助協</p> <p>11) 全国助産師教育協議会が主催するWHC研修を指します</p> <p>12) ファーストステージ研修(2013年度以降)年にアドバンス助産師の認証を受けた者</p>

# 2020年 アドバンス助産師の更新要件とスケジュール

※1つの研修を複数の分野に重複/分割して申請することはできません

	D 助産所管理者および助産所に勤務する助産師	E ウィメンズヘルスケア
	A	該当なし
経、④フィジカルアセスメント：呼吸/循環、⑤フィジカルアセスメント：産期のメンタルヘルス、⑪母体感染のリスクと対応、⑫臨床推論（総論）	1) 日本助産評価機構の研修承認番号がついた研修を受講すること。2017年以前の研修については別途条件があるため、日本助産評価機構ウェブサイト参照すること	
コース受講 コースを含む)	(D-1) NCPR Bコース以上受講 (A.S.I.Fコースを含む)	(D-2) NCPR Aコース受講 (S.I.Fコースを含む)
	NCPR Bコース以上受講 (A.S.I.Fコースを含む)	
る研修、③助産師および後輩教育等に関連した研修		
参加と1回の発表	学術集会3回の参加	学術集会3回の参加
(C-2) ●下記の要件を満たすこと 1. 2013年度以降の全国助産師教育協議会主催ファーストステージ研修修了 <sup>12)</sup> 2. 臨地実習指導 <sup>9)</sup> を45時間以上実施する(臨地実習指導実践レポート <sup>9)</sup> )	下記の要件を満たすこと 1. 5年間で実施した120時間分の助産実践報告書を作成する <sup>13)14)</sup> 13) 助産実践時間の換算については、日本助産師会「地域における業務項目と時間換算」を参照してください 14) 助産所管理者に限り、助産実践報告書のうち20時間分は、管理における実践報告を必須とします。管理における実践の内容は、[看護管理者]区分の専門的自律能力「3. 管理における実践 <sup>6)</sup> 管理：災害訓練、感染対策、地域連携、看護管理に関連した委員会活動等」と同様とします 2. 指定研修 <sup>15)</sup> (助産所管理者および助産所に勤務する助産師実践能力を育むための計画の科目1～3に該当する研修)60時間を受講する 科目1 マタニティケア能力に関する研修(18時間) (1) 助産師に関するガイドライン (2) 妊婦から産後1年までの時期にある女性の身体・心理・社会的状態のアセスメントと支援 (3) 乳幼児の成長発達とアセスメント (4) 地域における保健指導の理論と実際 (5) 授乳に関わる支援(母乳育児支援) 科目2 専門的自律能力に関する研修(18時間) (1) 助産管理 (2) コーディネーション (3) 企画力 科目3 ウィメンズヘルスケア能力に関する研修(24時間) (1) ウィメンズヘルス概論 (2) 子育てに関する支援 (3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツに基づく支援 (4) 女性のメンタルヘルスとその対応 15) 指定研修とは、以下を指します ① 日本助産師会が主催もしくは共催する研修会 ② 都道府県助産師会が主催もしくは共催する研修会 <sup>ア)</sup> で日本助産師会が承認番号を付与したもの ③ 日本助産師会の継続教育ポイントを認める他団体による研修会で受講後に受講者本人が継続教育ポイントを申請したもの ④ [看護管理者][教員][WHC]それぞれの区分の更新に活用できる指定研修 <sup>イ)</sup> ア) 都道府県主催研修会の指定研修認証は、2018年10月開催以降のものです。それ以前のものについては、日本助産師会「2) 2015～2017年度に受講した研修会を更新に活用するには…」を参照してください イ) それぞれの更新区分においてマタニティケア能力と分類される研修は科目1、専門的自律能力と分類される研修は科目2に該当します。助産師に求められるWHC研修のうち「女性のライフサイクルの観点から対象理解」、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツに基づく支援」は科目3に該当します	WHC研修 <sup>16)</sup> を指定のオンデマンド研修を含めて下記の時間分受講する 2020年更新申請者：72時間 2021年更新申請者：108時間 指定のオンデマンド研修は、日本助産実践能力推進協議会の下記4研修(6時間分) 「不妊・不育の悩みをもつ女性の支援」 「女性に対する暴力予防の支援」 「多様な性の支援」 「専門職として身につけたいウィメンズヘルスケア提供のための基盤能力」 16) WHC研修とは、以下の条件をすべて満たす研修を指します ① 研修内容が、「助産師に求められるWHC能力と教育項目」 <sup>ウ)</sup> に関するものである ② 研修時間が1つの項目につき60分以上である ③ 主な研修対象者が専門職である ④ 主催者が個人ではない ⑤ 開催日が下記の期間内である 2020年申請：2015年9月1日～2020年申請締切日まで 2021年申請：2016年9月1日～2021年申請締切日まで ※ 院内研修の開催日は2018年8月1日以降であること ⑥ 受講証明書類を発行していることが望ましい ※ 受講証明書類がない場合は、ポートフォリオを作成すること <sup>ウ)</sup> ウ) 日本助産評価機構ウェブサイト参照
主催する「マタニティケアに関する研修」と、を指します 学会、日本助産評価機構が主催する「マタニティケアに関する研修」区分の指定		
する研修」 区分の更新要件研修として承認を受けようと提出してください。申請用紙は、全助協ウェブ		
学生指導を指します		
評価機構ウェブサイトの更新申請のページください		
する研修」と、以下①、②いずれかの条件を満たす		
学会、日本助産評価機構、都道府県看護協会に関する研修、「倫理に関する研修」に関する研修 <sup>7)</sup> ※を参照 に関する研修、「倫理に関する研修」は、全助新要件研修とみなします。承認には研修主催ウェブサイトをご参照ください		
研修またはWHC研修の条件 <sup>16)</sup> を満たす研		
修了の更新要件(C-2)は、2015年、2016において1回のみ適用とします		

# 2022年

## アドバンス助産師の 更新申請要件が変わります

2022年より、アドバンス助産師の更新申請要件は、技術面と知識面を統合し、研修受講等の実績をもってCLoCMiP®レベルIIIに到達していることを確認するものになります。

### 2022年更新申請要件の概要

- 2020、2021年の更新申請区分を1つに統合します。
- 所属施設、役職、就業状況にかかわらず、要件を満たした方はどなたでも更新申請可能です。
- **2017年9月1日～2022年8月20日(更新申請締切日)**の期間に、必須研修、選択研修、学術集会、総合評価のすべての要件を満たしてください。
- **必須研修**は、日本助産評価機構が承認した研修のなかから、指定の20項目を各90分受講してください。
- **選択研修**は、助産実践能力に関する研修を150時間受講してください。
- 選択研修として、**助産実践時間を最大80時間**まで計上できます。  
たとえば、選択研修として助産実践時間80時間を計上する場合、残り70時間は研修を受講します。

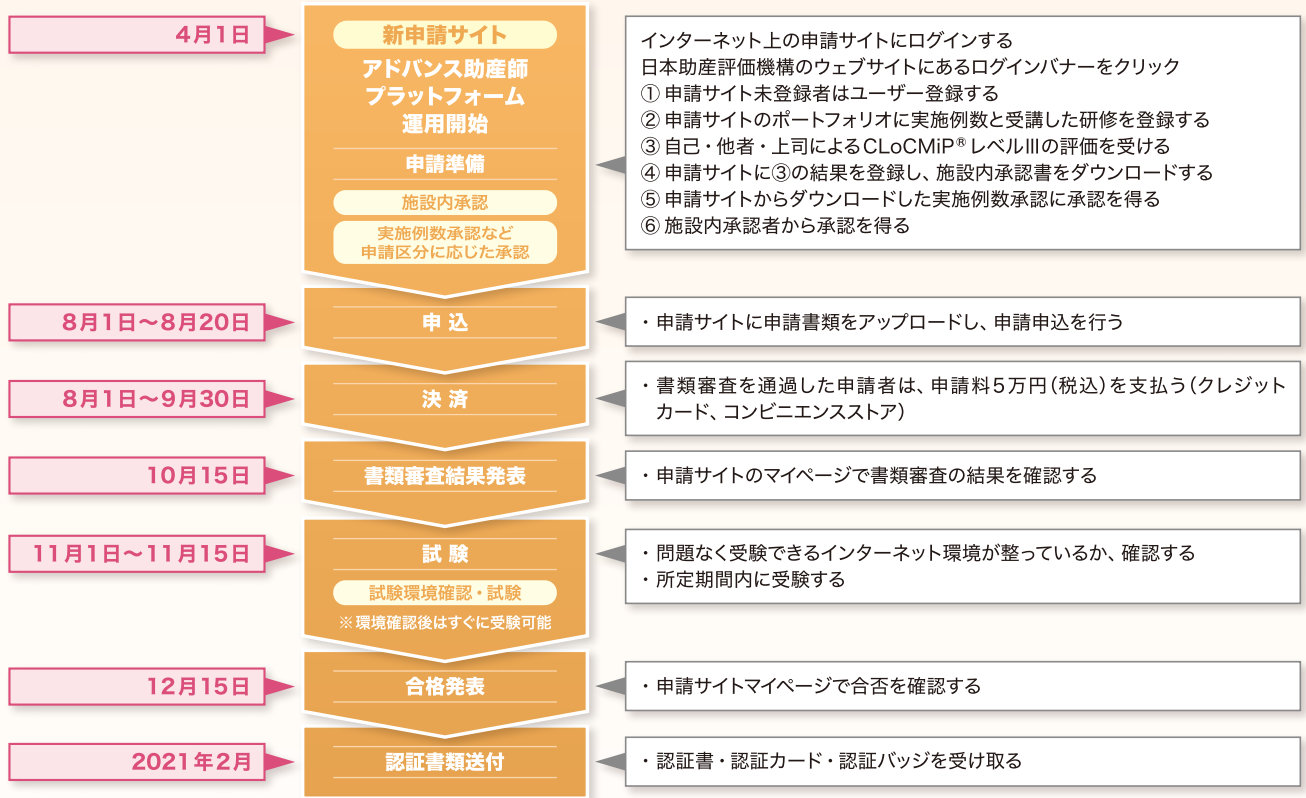
必須研修		選択研修		学術集会	総合評価
要件	20項目×90分	研修	助産実践	3回参加	A
		70～150時間	0～80時間		
		150時間			
備考	日本助産評価機構が承認した研修のなかから、下記の20項目を各90分受講する。  ①フィジカルアセスメント：妊娠期 ②フィジカルアセスメント：分娩・産褥期 ③フィジカルアセスメント：新生児 ④臨床推論 ⑤臨床薬理(妊娠と薬) ⑥臨床病態生理 ⑦CTG ⑧緊急時の対応 ⑨母体の感染 ⑩妊娠期の栄養 ⑪妊娠と糖尿病 ⑫授乳支援 ⑬後輩指導・助産師教育 ⑭医療安全と助産記録 ⑮災害時対応 ⑯助産師と倫理 ⑰意思決定支援 ※演習含む ⑱メンタルヘルス ⑲WHC指定項目から選択(1) ⑳WHC指定項目から選択(2)	助産実践時間を最大80時間まで計上可能とする。 助産実践時間とは、助産師として実践をした時間とする。  選択研修とは、以下の条件①～⑤をすべて満たすものとする。  ①研修内容が助産実践能力に関するものである。 ②研修時間が1つの項目につき60分以上である。 ③主な研修対象者が専門職である。 ④主催者が個人ではない。 ⑤受講証明書を発行していることが望ましい。  ※ 選択研修は、日本助産評価機構の承認は不要とする。 ※ 院内研修、教育機関での授業・講義(教員が学生のみを対象に行うもの)、一般向けの市民講座は不可とする。 ※ 条件をすべて満たす学術集会での講演・シンポジウムは可とする。	学術集会とは、プログラムに講演(基調講演、教育講演等)と一般演題発表が含まれる集会所する。学術集会の分野は不問。	CLoCMiP®レベルIII総合評価の方法は、日本看護協会『助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)活用ガイド』を参照すること。	
	※ 2017年9月1日～2022年8月20日の実績(研修・助産実践・学術集会)を有効とする。 ※ 1つの研修時間は、必須研修と選択研修に重複して計上できない。また、分割して計上できない。 例1) 1項目180分の必須研修を受講し、必須研修180分、選択研修180分として計上する→不可 例2) 1項目180分の必須研修を受講し、必須研修90分、選択研修90分として計上する→不可 ※ 講師を担当した研修の時間は、受講時間に計上できない。ただし、助産実践時間としては計上可とする。				

詳細は、日本助産評価機構ウェブサイトをご覧ください。



# 発表！2020年新規申請スケジュール

## CLoCMiP® レベルIII認証 新規申請のながれ



## CLoCMiP® レベルIII認証 新規申請要件

1. 申請対象者 下記要件をすべて満たした助産師であること

① 満5年以上の実践経験を有する日本国助産師資格保持者

② CLoCMiP® レベルIIIの総合評価が「B」以上で、認証申請要件をすべて満たし、施設内承認を得た者

※施設内承認者は、病院勤務者は看護部長・施設長、診療所・助産所勤務者は院長、教育機関勤務者は上長(教授または教務主任以上)、助産所管理者は都道府県助産師会会長

2. 申請要件

		要 件	評 価 方 法
到達の条件	マタニティケア能力	総合評価 <sup>1)</sup>	B以上
		分娩介助例数(70例以上は経膈分娩)	100例以上
		新生児の健康診査	100例以上
		妊娠期の健康診査	200例以上
		産褥期の健康診査	200例以上
		プライマリーケース	20例以上
必須研修	マタニティケア能力	集団指導(小集団指導)	実践・指導ができる
		母親学級・両親学級	
		緊急時の対応(BLS、多量出血等)	
ステップアップ研修	専門的自律能力	新生児蘇生法(NCPR)	Bコース以上
		①分娩期の胎児心拍数陣痛図(CTG)に関する研修、②フィジカルアセスメント：妊娠期、③フィジカルアセスメント：脳神経、④フィジカルアセスメント：呼吸/循環、⑤フィジカルアセスメント：代謝、⑥フィジカルアセスメント：新生児、⑦子宮収縮剤の使用と管理、⑧助産記録、⑨妊娠から授乳期における栄養、⑩周産期のメンタルヘルス、⑪母体感染のリスクと対応	過去5年以内の受講
		①出血時の対応に関する研修 ②周産期の倫理に関する研修 ③助産師および後輩教育等に関連した研修	修了認定証または受講証明書
ステップアップ研修	専門的自律能力	学術集会参加 日本助産学会、日本母性衛生学会、都道府県母性衛生学会、日本母性看護学会、日本糖尿病・妊娠学会、日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会、日本助産師学会、日本周産期・新生児医学会、日本新生児看護学会、日本母子看護学会、日本周産期メンタルヘルス学会、日本母乳哺育学会、国際助産師連盟会議(ICM)	過去5年以内に、左記の学会に参加
			参加証/参加時のネームカード等

1)「助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)活用ガイド」p.63-64参照(<https://www.nurse.or.jp/nursing/josan/oyakudachi/kanren/sasshi/pdf/guide.pdf>)

2)施設内承認書および実施例数承認書は、2020年4月1日以降にアドバンス助産師プラットフォームよりダウンロード可能になります



**司会 高田昌代** 先生  
神戸市看護大学 教授/  
日本助産評価機構 理事

**海野信也** 先生  
北里大学 医学部 産科学 主任教授

**鈴木明日香** 様  
名古屋第一赤十字病院 助産係長/  
アドバンス助産師

**村上明美** 先生  
神奈川県立保健福祉大学 教授  
(発言順)

## 座談会

# いま、求められている 助産師の実践力

2019年10月5日  
TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンターにて  
構成・撮影 河合 蘭

### 動き出したタスク・シフティング

**高田昌代(司会)** みなさま、本日はご出席をありがとうございます。本機構の理事で、神戸市看護大学で助産師教育に携わっております高田と申します。本日は、それぞれのお立場から周産期医療の行く末と、助産師にいま求められている実践力についてお話しいただきたいと思っております。まずは、自己紹介をお願いします。

**海野信也** 北里大学で産科の教授をしております海

野です。私は、日本産科婦人科学会で医師の働き方を検討する委員会を担当しておりました。この問題につきましても、2019年3月に出た「医師の働き方改革に関する検討会 報告書」によって今後の枠組みがすでに決まっています。2019年度は実践に向けて制度設計を行う段階に入りました。

報告書では、いままで医師がやってきた業務の一部をほかの職種の方に分担していただくという方向性が明確に示されています。いわゆるタスクシフトです。日本産科婦人科学会では、医師の働き方改革を

実現するためにはタスクシフトが必要不可欠と考えており、産科領域では当然のことですが、そのタスクシフトを受けていただくのは助産師さんということになります。日本看護協会ともご相談したうえで、7月には厚労省の「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフティングに関するヒアリング」で学会としての考え方についてプレゼンテーションを行いました。これについては報道も出ましたし、詳細な内容は厚労省のホームページで公表されておりますので、ご覧いただければと思います。

このように産科におけるタスクシフトの考え方は、すでに共有されてきています。今後、これまで以上に助産師さんに求められる能力は高度なものになっていきます。今後の助産師さんに必要な教育研修をどのように実現していくのかというところを本日は伺いたいと思っています。

**鈴木明日香** 私は名古屋第一赤十字病院で、助産係長という役付けで働いております鈴木です。私の病院は、助産師外来から始まって院内助産システムであるバースセンターを立ち上げることができた総合病院です。本日は現場にいちばん近い管理者として、またバースセンターと総合周産期母子医療センターの両方で働いてきた助産師としてお話しできたらと思います。

**村上明美** 私は神奈川県立保健福祉大学で助産師教育と看護師教育に携わっている村上と申します。助産師養成所の全国組織である全国助産師教育協議会の会長も務めております。全国助産師教育協議会は、「助産師教育は看護基礎教育の基盤の上に2年間とする」というビジョンを2015年に掲げています。これは日本看護協会も日本助産師会も同様な考えをお持ちで、近い将来、助産師教育はそうした形でやっていけたらと考えています。

**高田** みなさま、ありがとうございました。

さて2019年度のCLoCMiP®レベルⅢ認証ですが、約700人の新規申請がありました。これでアドバンス助産師の認証を受けた助産師が12,700人くらいになりますと、就業助産師の大体3分の1がアドバンス

助産師ということになります。

しかし、人数を増やすことだけがこの認証制度の目的ではないことは言うまでもありません。臨床現場の状況に合わせて実践力をつけていくことが必要です。まず現場の様子をお聞きしたいと思います。いまの臨床における現状と課題を、鈴木さん、教えてくださいませんか。

## 現場では、業務が増える一方

**鈴木** 当院では高年齢での出産や、母体に合併症をもった妊娠など、ハイリスク妊娠が増えています。それだけの理由ではありませんが、帝王切開率が上昇しています。がんなどの疾患を合併している妊婦さん、メンタルヘルスの不調の問題を抱える妊婦さん、社会的ハイリスクの妊婦さんの未受診分娩もかなりの件数になっています。特定妊婦さんたちのことで行政や精神科医療との連携が必要なことも多くありますが、課題がいくつかありなかなか難しいですね。

一方でローリスクの妊婦さんにも手厚いケアが求められています。フリースタイル分娩、完全母乳育児、ドライテクニクの希望などいろいろなことを勉強されている、こだわりをもった妊産褥婦さんがバースセンターには多くみえますが、そのためには助産師も勉強して引き出しを多くもつ必要があると考えています。個別性に応えることは大変ですが、妊産婦さんのニーズをお聞きできることが助産師外来のメリットですので、私たちはそこには時間をかけています。

**海野** 私どもの北里大学病院もよく似た状況です。実際に産科だけできめ細かく対応するのは難しく、ソーシャルワーカーなど多職種の人たちの手をお借りしていく必要があります。

**村上** どんどん出産数が減っているうえにハイリスクの方が多いため、助産学実習でも学生たちが担当させてもらえるケースは多くありません。例数を確保するのは大変なことです。それなのに学生たちは、卒業したら、すぐにハイリスク妊娠に対応しなければならないのです。麻酔分娩が増えているので、そのための学

習も織り込んでいかないといけません。

**高田** ここに来て、さらに助産師の実践力が期待されているというのは不安がありますか。

**鈴木** 正直言って、不安はあります。助産師に求められる能力はすでにたくさんあり、正常妊婦の診断など助産師として基本と思われることも、環境の変化から習得しにくくなっているからです。そのうえで助産師がすべき業務が増え、活躍の場も広がると助産師の仕事の質の担保が難しくなるのではと心配になります。児童相談所などから「助産師を勤務させたい」などと言われると、ありがたいですがそう感じてしまう面もあります。

働く場によって実にさまざまな能力が求められるでしょうから、均一化された知識や技術だけでは難しいのではないのでしょうか。

## リプロダクティブ・ヘルスの プロフェッショナルとして

**海野** 日本産科婦人科学会では、新しくリプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会というものをつくりました。われわれは、医師とは病人を対象とした仕事だと考えてきましたが、それだけではなく「社会全体のことをもっと考えるべきプロフェッションなのではないか」という意識が出てきたわけです。

この観点から考えると、助産師という仕事も、とても幅広い仕事なのです。社会にはいろいろな場で働く助産師さんがおられる。でも、だからこそ、助産師さんみんなが共通のバックグラウンドをもっていることはすごく大事だと思うのです。周産期センターにいる人と地域にいる人が共通の言語で情報を共有して、それぞれの患者、妊産婦さんに最適な対応ができるしくみを作っていく必要があります。

助産師が足りているかどうかという議論も、助産師1人あたりの分娩取り扱い数で考える計算は、ほんとうは間違っているのかもしれない。いま、看護師のうちで助産師になる人は何十分の一ですか。

**村上** 20分の1です。

**海野** それが15分の1になれば、助産師数はまったく数が変わります。もちろん養成は大変ですが、以前も、助産師の養成数を年間1,600人から2,000人に増やすことができましたよね。助産師になりたい人はたくさんいます。

マタニティヘルスケアは確かに助産師本来の業務です。では、リプロダクティブ・ヘルスケアを専門にする専門職とは、いったい誰かというところ…

**高田** 助産師ですね。

**海野** そうですよ。助産師ですよ。ほかにそこをしてくれる人はいないんですよ。そのことを、社会は、まだ、あまりわかっていません。

**村上** 学生たちも「助産師は分娩を介助する人」というイメージがとても強いですね。教育もあまり時間を割くことができないでいます。

**鈴木** 現場でも、分娩という業務はとても重いです。

**高田** 助産師は卒業後おもに病院の産科に就職して、そこでマタニティヘルスケア能力を上げていきます。そこをやりながら、少しずつウイメンズヘルスのことを学べる機会があるとよいですね。

**海野** 最初から「これを全部理解しなさい」と言ってもそれは難しいですよ。お産の現場でいろいろなケースに関わるなかで、専門家としての思考が始まるんだと思います。実務に入る前に「なんでもできるようにしておきなさい」というのは無理な話です。

**鈴木** 私はいま、家族看護に興味が出てきています。人が亡くなる時、生まれるときのどちらもそうですが、家族は、再編成のときがとても大切ではないでしょうか。

**高田** こうしたマタニティヘルスケア能力を実践のなかで獲得しながら、ウイメンズヘルスケアのなかでもリプロダクティブ・ヘルスケアに関する能力をつけていくことが求められていく必要があるのです。また、女性を中心にしながらも、家族という視点も大事だということですね。

## 働き方改革は、日本の出産をどう変えるか

**高田** 働き方改革は、周産期医療にどのように影響してくるのでしょうか。

**海野** そこは、ここ5年間で大きな変化が起きると考えられています。要は、労働時間の制限がかかります。国の認識では産婦人科医がいちばん労働時間が長く、今後、ハイリスクをみる施設はどんどん大規模化していかざるを得ません。先日は地域医療に対する貢献度がほかの病院と比べて少ない可能性のある公立・公的病院が400余り公表されてニュースになりました。ああいった情報を国が出したねらいは、公的病院を大規模化してそこで働く人間の労働条件を改善しようということです。病院の統合と機能強化の結果、取扱分娩数が増えれば産科の単科病棟を維持できる可能性が高まり、助産師さんたちは、本来の業務に集中できます。

ただ、そうなるとお産を地域で担える環境をどう維持するかが問題になります。幸い、日本の特徴は、開業医さんがおられることですよね。ここは、先ほどの話とはまた別枠です。地域に開業医さんがいてくれるから、病院は改革ができるということです。

**高田** そのようななかで、院内助産を推進していくことについては、どうお考えですか。

**海野** 院内助産は、安全性を科学的に裏付ける必要があります。「海外ではすでにやっている」と言われますが、その海外は日本より周産期統計の数字が悪いじゃないですか。そうすると「日本より悪い数字の国のやり方を導入しても大丈夫なのか」という疑問をもつ人も出てきます。この場合、数字は既存のやり方より悪くなければいいのです。よい必要はありません。これまで行われた調査で、「満足度が上がっています」ということは示されていますが、それでは「それは感想でしょう」と言われてしまうところもあります。

お産では安全確保が大前提なので、それについて、「非劣性」であることを示す必要があるのです。

## ◆ アドバンス助産師とはどんな助産師か

**高田** では、最後に、みなさまにとってアドバンス助産師とはどんな存在なのかお聞かせください。

**海野** 私は「これからの日本のお産のあり方という

のを決めていく人たち」であると思っています。結局、社会がアドバンス助産師の能力をどれだけ理解してくれるかが、全体的な変化に密接に関わっているのです。

われわれはいま、大変な危機にあるわけです。未来は、私たちが思っているような未来にならないかもしれないのです。でも、そこをなんとか支えていっていただきたいと期待しています。

**鈴木** 「目の前にいる人のために全力で自分の能力を発揮できるように、いつも自分を高めていく助産師」でしょうか。専門スキルを使って人を支えていこうという気持ちがあることがいちばん大事だと思っています。

**村上** アドバンス助産師は「日本の助産師の在り方を先導できる人」だと思います。乳腺炎重症化予防の案件に関してもアドバンス助産師であることが求められましたが、今後は同様のことが増えていくように思います。ですから、認証のクオリティは担保しなければなりません。

**高田** 本日は、いま、そして今後の助産師に求められる実践力を考えるうえで、大変心強いお話をいただきました。どうもありがとうございました。引き続き、アドバンス助産師の制度にご協力いただきますよう、お願いいたします。



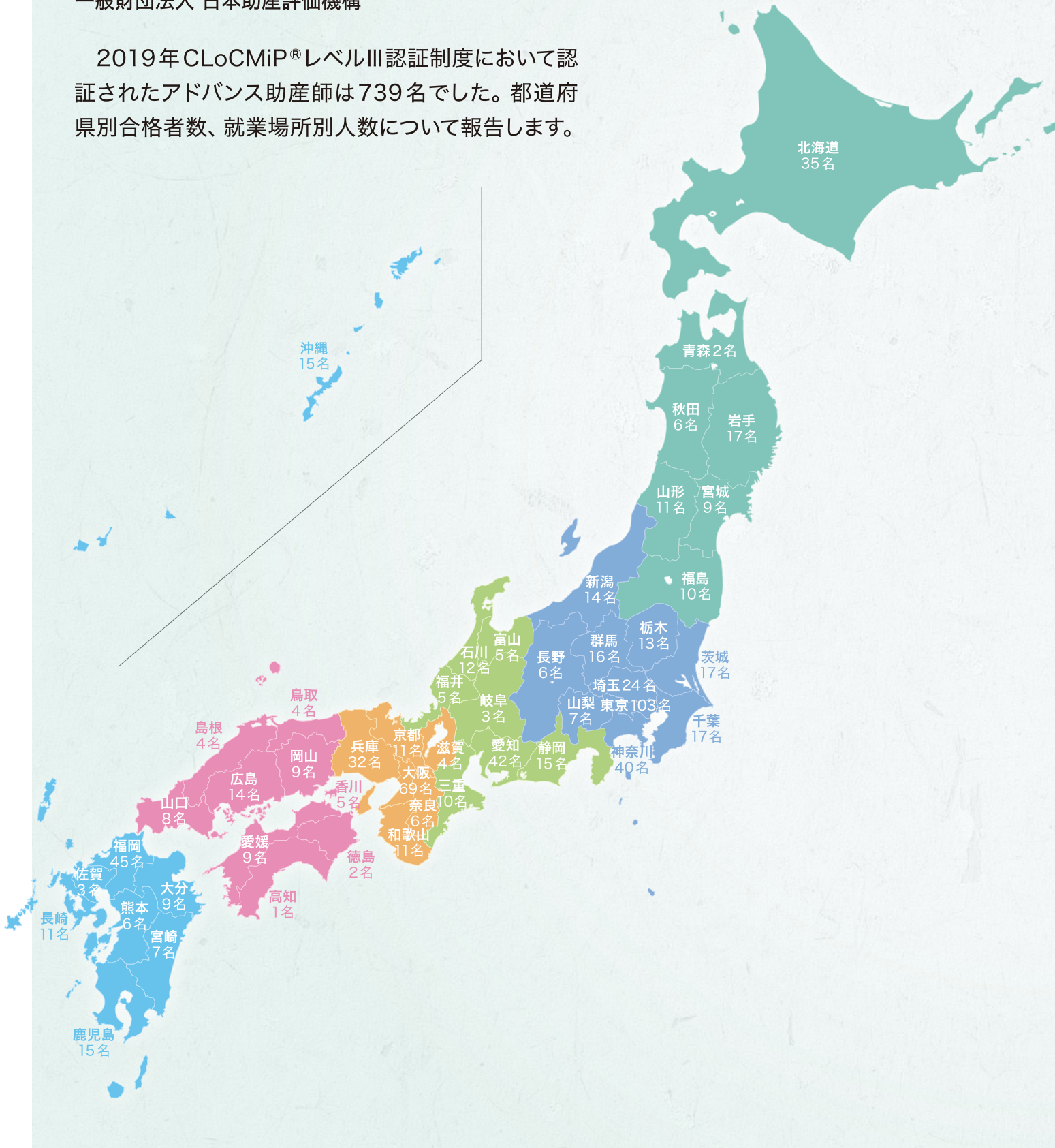
右上から時計回りに  
村上明美先生、海野信也先生  
鈴木明日香様、高田昌代先生

2019年

# 認証審査結果報告

一般財団法人 日本助産評価機構

2019年CLoCMiP®レベルⅢ認証制度において認証されたアドバンス助産師は739名でした。都道府県別合格者数、就業場所別人数について報告します。



(人)

地区	都道府県	計	内訳							
			総合周産期 母子医療 センター	地域周産期 母子医療 センター	総合・地域 周産期母子医療 センター 以外の病院	診療所	教育機関	助産所	その他	不明
北海道・東北地区	北海道	35	4	11	12	6	0	0	0	2
	青森県	2	0	0	1	1	0	0	0	0
	岩手県	17	0	8	7	2	0	0	0	0
	宮城県	9	1	1	1	5	1	0	0	0
	秋田県	6	0	1	5	0	0	0	0	0
	山形県	11	2	0	6	3	0	0	0	0
	福島県	10	1	3	6	0	0	0	0	0
関東・甲信越地区	茨城県	17	8	1	4	3	1	0	0	0
	栃木県	13	2	3	4	4	0	0	0	0
	群馬県	16	0	11	2	3	0	0	0	0
	埼玉県	24	2	2	10	8	2	0	0	0
	千葉県	17	3	1	6	7	0	0	0	0
	東京都	103	17	11	56	14	4	1	0	0
	神奈川県	40	5	13	16	5	1	0	0	0
	新潟県	14	2	3	4	5	0	0	0	0
	山梨県	7	0	2	4	1	0	0	0	0
長野県	6	1	1	2	1	1	0	0	0	
東海・北陸地区	富山県	5	0	0	4	1	0	0	0	0
	石川県	12	0	0	11	0	1	0	0	0
	福井県	5	2	2	0	1	0	0	0	0
	岐阜県	3	1	2	0	0	0	0	0	0
	静岡県	15	0	4	11	0	0	0	0	0
	愛知県	42	4	7	6	23	2	0	0	0
	三重県	10	2	0	5	3	0	0	0	0
近畿地区	滋賀県	4	2	2	0	0	0	0	0	0
	京都府	11	1	4	3	3	0	0	0	0
	大阪府	69	7	22	20	18	1	0	0	1
	兵庫県	32	6	8	14	2	2	0	0	0
	奈良県	6	0	0	6	0	0	0	0	0
	和歌山県	11	0	0	5	6	0	0	0	0
中国・四国地区	鳥取県	4	0	1	2	1	0	0	0	0
	島根県	4	2	1	0	1	0	0	0	0
	岡山県	9	1	3	3	2	0	0	0	0
	広島県	14	2	4	3	5	0	0	0	0
	山口県	8	2	3	1	2	0	0	0	0
	徳島県	2	0	0	1	1	0	0	0	0
	香川県	5	1	0	2	0	2	0	0	0
	愛媛県	9	0	1	5	3	0	0	0	0
	高知県	1	0	0	0	1	0	0	0	0
九州・沖縄地区	福岡県	45	8	3	19	15	0	0	0	0
	佐賀県	3	1	0	0	1	0	0	1	0
	長崎県	11	0	0	7	3	0	1	0	0
	熊本県	6	0	1	1	4	0	0	0	0
	大分県	9	1	1	1	5	0	1	0	0
	宮崎県	7	0	1	3	2	1	0	0	0
	鹿児島県	15	1	5	5	4	0	0	0	0
	沖縄県	15	1	5	5	4	0	0	0	0
合計	739	93	152	289	179	19	3	1	3	

# アドバンス助産師 交流会のご報告

2019年6月22日(土)、7月21日(日)に聖路加国際大学にて開催されました、第1回・第2回アドバンス助産師交流会は、計187名にご参加いただき、盛況をもって終了となりました。ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

交流会では、井本寛子氏(日本看護協会 常任理事)による講演「アドバンス助産師に求められる役割」、淵元純子氏(日本助産師会/ふちもと助産院)による講演「助産師に求められる WHC 能力について」に続いて、「アドバンス助産師とはどんな人?」というテーマでグループワークが行われました。

## 参加者の声

- 全国各地の助産師と意見交換でき、アドバンス助産師に関するだけでなく、施設の現状等についてもお話を伺うことができ、楽しかったです。
- 淵元先生の話聞き、助産師としての活動のあり方についてあらためて考える機会をもてました。分娩だけでなく、幅広い年代に対する支援の大切さを感じ、自分自身の今後の働き方、内容を考えることができました。
- アドバンス助産師の更新について情報共有でき、同じ悩みを分かちあえて安心感がありました。がんばって更新しよう!とモチベーションが上がりました。
- 意見交換を通して、アドバンス助産師は役割を与えられることを待つのではなく仲間をつくりながら主体的に行動することが重要であることなど、自施設で活動していくためのヒントが得られました。
- アドバンス助産師を広く知ってもらえるようPRすることも、アドバンス助産師としてのひとつの役割だと再認識したので、今後は広報活動にも力を入れていきたいです。



アドバンス助産師交流会は、今後も全国で開催予定です。  
皆様のご参加を心よりお待ちしております。



# IADPSG

International Association  
of the Diabetes and Pregnancy Study Groups

## 2020

Congress President :

### Yuji Hiramatsu

(Chairperson of the Executive Board, the Japanese Society of Diabetes and Pregnancy)

November 13th (Fri.) - 15th (Sun.), 2020

第6回 国際糖尿病・妊娠学会学術集会

# Kyoto,

## JAPAN

会場：メルパルク京都

同時開催

第36回 日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会

学会長：杉山 隆

(愛媛大学大学院医学系研究科 産科婦人科学講座)

2020年11月14日(土) - 15日(日)

参加費

事前登録: 15,000円

当日登録: 20,000円

事前登録開始: 2020年3月初旬予定

第36回日本糖尿病妊娠学会年次学術集会だけでなく  
IADPSG2020(国際糖尿病・妊娠学会)にも参加できます

CLoCMiP® (認証助産実践能力習熟段階/クリニカルラダー)  
レベルⅢ認証申請に活用可能な研修

11月13日(金)

13:30~15:00 CLoCMiP®レベルⅢ認証申請 必須研修 フィジカルアセスメント: 代謝

15:00~16:00 アドバンス助産師【WHC区分】更新要件 WHC研修

申請中

●IADPSG2020 <http://iadpsg2020.umin.jp/> ●日本糖尿病・妊娠学会 <http://www.dm-net.co.jp/jsdp>

●IADPSG2020/第36回日本糖尿病・妊娠学会学術集会 運営事務局 (株)MAコンベンションコンサルティング内  
〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7 麹町パークサイドビル402 TEL: 03-5275-1191 / FAX: 03-5275-1192 / E-mail: iadpsg2020-jsdp36@macc.jp

## 次号予告

# 機関誌「アドバンス助産師」は、 Webメディアにリニューアルします。

新しいWeb機関誌は…

スマートフォンやタブレットなどで、いつでもどこでも閲覧可能！

バックナンバーへのアクセスが簡単！

アドバンス助産師の意義や役割を社会に発信！

これまで同様、アドバンス助産師に必要な情報をお届けするとともに、  
時宜にかなった情報の発信をめざします。

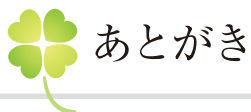
また、アドバンス助産師の意義と役割を、多くの方に伝えてまいります。

Web版機関誌は、新しく開設する広報サイトで閲覧できます。

最新号はアドバンス助産師だけに見えていただけるようパスワードで保護されています。

ログイン方法は、日本助産評価機構ウェブサイトをご参照ください。

今後とも、機関誌「アドバンス助産師」をどうぞよろしくお願いいたします。



## あとがき

「アドバンス助産師」を発行して3年が経ちました。世の中の流れに沿い、冊子でのお届けはこれが最後となります。次号からは、いつでも、どこでもスマートフォンさえあれば見られるようにお届けいたしますので、ぜひご期待ください。

2019年11月29日、出産したあとの母親への「産後ケア事業」の実施を市町村の努力義務とし、心のケアや育児相談にきめ細かく取り組むなどとした改正母子保健法が参議院本会議で可決・成立しました。助産師が社会から期待される業務範囲は今後ますます広がりをみせられると思われまます。出生数の減少にみるように、社会はとて早く流れています。アドバンス助産師が備えるべき、コア・コンピテンシーの4つの能力も、その早い流れの社会とともに変化します。私たちは、それを先取りして2022年からの更新申請要件を改正いたします。母子とその家族、そしてすべての女性に優しく寄り添える賢明なアドバンス助産師を今後ともめざしていきましょう。

一般財団法人 日本助産評価機構 理事  
高田昌代

2020.2月号 | Vol.6

# アドバンス助産師

発行：2020年2月1日

発行所：一般財団法人 日本助産評価機構

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町7-9-202

TEL：03-5844-6110

Mail：jime@josan-hyoka.org

企画：日本助産評価機構 広報委員会

制作：株式会社 学研メディカルサポート

編集：山崎絵美・竹ヶ原優希・太田かおる・横田久長

表紙・紙面デザイン：川田延明

印刷：壮光舎印刷株式会社

頒価：本体2000円（税別）

本誌の無断転載、複製、複写（コピー）、頒布、公衆送信、翻訳、翻案等を禁じます。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても、著作権法上、認められていません。

# 看護の力で健康な社会を！

Nursing Now キャンペーンは、ナイチンゲールの生誕 200 年である 2020 年末まで、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、人々の健康向上に貢献するために行動する世界的なキャンペーンです。日本でも、実行委員会を発足して活動を展開しています。



©1976, 2020 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. G603673

<Nursing Now キャンペーン実行委員会> 日本看護協会、日本看護連盟、日本助産師会、全国保健師長会、日本精神科看護協会、日本看護学校協議会、日本訪問看護財団、全国訪問看護事業協会、日本看護系大学協議会、日本私立看護系大学協会、全国保健師教育機関協議会、全国助産師教育協議会、認定看護管理者会、看護系学会等社会保険連合、笹川保健財団、木村看護教育振興財団、WHO プライマリーヘルスケア看護開発協力センター／聖路加国際大学、災害健康危機管理 WHO 協力センター／兵庫県立大学地域ケア開発研究所、国立国際医療研究センター、日本赤十字社医療事業推進本部看護部、労働者健康安全機構、国立大学病院看護部長会議、恩賜財団済生会、日本私立医科大学協会病院部看護部長会、地域医療機能推進機構、全国国立病院看護部長協議会、全国自治体病院協議会看護部会、国家公務員共済組合連合会、日本産業保健師会、日本看護系学会協議会  
<後援> 日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会、全国自治体病院協議会、全国老人保健施設協会、全国老人福祉施設協議会、全国社会福祉協議会、日本労働組合総連合会、ささえあい医療人権センター COML  
<オブザーバー> 厚生労働省

[https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing\\_now/nncj/](https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/nncj/)



## オンデマンド研修のご案内

日本助産実践能力推進協議会、日本看護協会、日本助産学会では、アドバンス助産師に必要な研修をオンデマンドで配信しています。

CLoCMP レベルⅢ認証申請に必要な「必須研修」・「ステップアップ研修」は、すべてオンデマンド研修で受講が可能です。(学術集会と NCPN を除く)

### 日本助産実践能力推進協議会が配信するオンデマンド研修

#### 必須研修

【分娩期の胎児心拍数陣痛図 (CTG) に関する研修】  
CTG の判読とその対応

【フィジカルアセスメント: 妊娠期】  
妊娠期のフィジカルアセスメントとケア

【フィジカルアセスメント: 新生児】  
新生児のフィジカルアセスメントとケア

【妊娠から授乳期における栄養】  
妊娠期から授乳期における栄養と食事

【周産期のメンタルヘルス】  
妊娠期から産褥期におけるメンタルヘルスケア

【母体感染のリスクと対応】  
母体感染のリスクと対応

【臨床推論 (総論)】※更新申請のみ  
臨床推論

#### ステップアップ研修

【出血時の対応に関する研修 (常位胎盤早期剥離)】  
※いずれか1研修の受講で可  
産科における母体救急とその対応  
常位胎盤早期剥離一予防のための保健指導と診断時の対応

【助産師および後輩教育等に関連した研修】  
助産師を育成する支援者の役割一成人教育・成人学習の考え方

【倫理に関連した研修】  
助産ケアと倫理一助産師に求められる役割

#### WHC 能力に関する研修

安全に配慮した早期母子接触と助産師の役割  
不妊・不育の悩みをもつ女性の支援※  
女性に対する暴力予防の支援※  
多様な性の支援※  
専門職として身につけたいウィメンズヘルスケア提供のための基盤能力※  
※[WHC] 区分必須研修 (計6時間)

### 日本看護協会が配信するオンデマンド研修

#### 必須研修

【助産記録】  
【CLoCMP レベルⅢ認証申請のための必須研修】(研修番号:120)  
周産期における医療安全と助産記録

【子宮収縮剤の使用と管理】  
【CLoCMP レベルⅢ認証申請のための必須研修】(研修番号:121)  
子宮収縮剤使用時の助産ケアのポイント

【フィジカルアセスメント: 脳神経】  
【CLoCMP レベルⅢ認証申請のための必須研修】(研修番号:122)  
臨床推論につなげるためのフィジカルアセスメント 脳神経編

【フィジカルアセスメント: 呼吸・循環】  
【CLoCMP レベルⅢ認証申請のための必須研修】(研修番号:123)  
臨床推論につなげるためのフィジカルアセスメント 呼吸・循環編

【フィジカルアセスメント: 代謝】  
【CLoCMP レベルⅢ認証申請のための必須研修】(研修番号:124)  
臨床推論につなげるためのフィジカルアセスメント 代謝編

### 日本助産学会が配信するオンデマンド研修

乳腺炎重症化予防ケアのための推奨研修  
乳腺炎重症化予防ケア・指導研修

くわしくは各団体ウェブサイトをご覧ください

日本助産実践能力推進協議会オンデマンド研修 ▶▶▶ 日本助産評価機構ウェブサイトへ

日本看護協会オンデマンド研修 ▶▶▶ <https://www.nurse.or.jp/nursing/education/training/web/index.html>

日本助産学会オンデマンド研修 ▶▶▶ [https://www.josan.jp/modules/meeting/index.php?content\\_id=3](https://www.josan.jp/modules/meeting/index.php?content_id=3)

# 申請サイト リニューアルのお知らせ

## 2020年 4月

2020年4月1日、アドバンス助産師の申請サイトは、  
様々な機能を備えた総合サイト「アドバンス助産師プラットフォーム (AMP)」  
として生まれ変わります。

アドバンス助産師総合サイト

## アドバンス助産師プラットフォーム <https://amp.josan-hyoka.org/>

旧申請サイト「CLOCMiP®認証申請システム」の登録情報は、  
すべて「アドバンス助産師プラットフォーム」に引き継がれます。  
2015・2016年認証取得者の方は、申請時の情報でユーザー登録されて  
いますので、登録情報のご確認と更新をお願いいたします。



### ■ アドバンス助産師プラットフォームの主な機能 ■

#### 📄 新規申請・更新申請

アドバンス助産師の申請手続きが行えます。  
申請に必要な施設内承認書等の申請書類は  
こちらからダウンロードできます。

#### 📁 ポートフォリオ

実施例数や受講した研修をポートフォリオに登録  
できます。登録した内容で申請要件を満たし  
ているかを確認でき、研修一覧をダウンロード  
することもできます。

#### 📱 QRコードでの受講登録

研修会場でQRコードを読み取ると、受講した  
研修の情報がポートフォリオに自動で反映さ  
れます。(※研修主催者が登録している研修  
に限ります)

#### 📺 オンデマンド研修

日本助産実践能力推進協議会オンデマンド研修  
が受講できます。受講した研修の情報は、ポ  
ートフォリオに自動で反映されます。

### ■ サービス休止のお知らせ ■

旧申請サイト「CLOCMiP®認証申請システム」(<https://sys.clocmip.com/>)は、  
2020年2月28日(金)17時をもってサービスを終了いたします。  
2020年2月28日(金)～3月31日(火)の期間は、リニューアル作業に伴いオンライン申請サイトは  
お使いいただけません。ご不便をおかけいたしますが、何卒ご了承いただきますようお願い申し上げます。

一般財団法人日本助産評価機構 <https://josan-hyoka.org/>